

結（ゆい）

白川郷の厳しい気候風土での生活を可能にした重要な概念が「結（ゆい）」である。ゆいは漢字で「結」と書き、村人同士が互いに助け合い、助け合う絆を意味する。

結の最も身近な例は、大勢の村人が集まって、一日に合掌造りの屋根を葺き替える作業である。大きな家では、100 人から 200 人が同時に屋根の上で作業することになる。その間、他の人たちは地面でカヤ（ススキ）の束を運んだり、食べ物準備をしたり、他の仕事を手伝うなどして働いた。

結はまた、栃の実やその他の天然素材を集めるような共同作業や、冠婚葬祭などの行事を行うなど他の共同活動の際にも重要であった。結制度の特徴のひとつは、厳格な互惠性と公平性である。そのため、例えば葺き替えの際には、家族や組合などからの寄付は、「結帳」と呼ばれる帳簿に記録された。現存する最古の結帳は 1792 年のものである。

最近でも荻町界限には「結」の概念が残っている。2023 年には、COVID-19 の大流行により、5 年ぶりに地元住民が葺き替えを行った。しかし、合掌造り民家園の屋根の葺き替えはプロの茅葺き職人が行っている。